

こんにちは。すっかり秋らしい季節となってきました。今日はそんな秋の夜長に読み耽りたい1冊をご紹介します。

『オオカミ族の少年』（クロニクル千古の闇 1）  
ミシェル・ペイヴァー 作 さくま ゆみこ 訳 評論社 1890円 読み物  
〈お勧め年齢〉

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★★★★ 中学生★★★★  
高校★★☆ 一般☆☆☆

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

#### 〈本の紹介〉

舞台は今から6000年の昔。そこにはオオカミ族、ワタリガラス族などの氏族たちが森と共に暮らしていました。主人公のトラクはある夏の終わり、一緒に暮らしていた父さんを悪霊に取り憑かれたクマに殺されます。なぜクマは父さんを狙ったのか？そこにはトラク親子が氏族から離れて暮らしていた秘密が隠されていました。「案内人」であるオオカミの子ウルフ、ワタリガラス族の女の子レンと共に、クマの秘密を解き明かす旅が始まります。この物語は全6巻刊行される予定で、現在3巻まで刊行されています。この第1巻では全ての謎は解明されず次巻へ持ち越され、またその謎が謎を呼び第3巻でも全ての謎はまだ解明されていません。6巻刊行されてから読んでもしっかりするでしょうし、もちろん待ちきれない人は今すぐ！手にとってみてください。

#### 〈子どもに手渡すときのポイント〉

大人気シリーズ「ハリー・ポッター」。この本はたくさん子どもたちが手にしているのは周知のことですが、それを読んだ子どもが「他におもしろい本なあい？」と聞いてきた時にぜひ手渡してほしい1冊です。作者はこの物語を書くために、自らフィンランドの森の奥深くへ出かけ、キノコの火種やカバノキの皮のラッパ、自分で作る荷かごなどを体験されたそうです。その甲斐あって、読むだけで私たちの知らない太古の森の世界が目の前に生き生きと広がってきます。また、オオカミの子ウルフの視点で描かれた部分が多くあり、新鮮な印象を物語に与えてくれています。全巻刊行されるのが楽しみな1冊です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。